

東日本の精鋭激突 磨き抜かれた 技と心を競う

I-Style Special Phot Feature



第18回東日本高等
学校選抜女子大会

第18回を迎えた東日本高等学校選抜女子バレーボール大会は5月3(5)日、一関市総合体育館を会場に開かれました。

この大会は、東日本地区の高校バレーボール選手の技術向上と、交流を目的に同大会実行委員会、修紅短期大学、市バレーボール協会が主催しているもの。

インターハイ出場を目指す各チームにとって、練習の成果を試す絶好の機会として位置付けられています。

今年の大会には、1月に開催された、春の高校バレーに出場した札幌大谷(北海道)、高崎健康福祉大学(群馬)、春日部共栄(埼玉)、古川学園(宮城)の4校を含め、16校が参加。

市内からは一関修紅が参加し、優勝を目指して、熱い戦いを繰り広げました。

初日は、4ブロックに分かれた予選リーグ戦。2日目は初日の順位により、1位と2位、3位と4位同士がそれぞれ2ブロックに分かれて戦いました。最終日は2日目上位リーグの2ブロックそれぞれの1位と2位、計4校によるトーナメント戦で優勝を争いました。

選手たちは、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックに大きな声を掛け合いながら、懸命にボールを追いかけていました。

会場には保護者や各校の関係者が応援に駆け付け、盛んに声援を送っていました。

大会の実行委員会会長で市バレーボール協会長の阿部諭一さんは「今年も東日本各地から強豪チームが参加し、レベルの高い大会となった」と感想を話し、「市内のバレーボール競技のレベルアップにもつながる大会。市内の小中学生にも見てほしい」と期待していました。

決勝では、古川学園(宮城)が1セットも失わない安定した強さで2年連続5回目の優勝。準優勝は春日部共栄(埼玉)。3位は新発田商業(新潟)、米沢中央(山形)でした。

一関市は、平成28年に開催される「2016希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」でバレーボール成年6人制男女の部の会場地にもなっています。

阿部さんは「国体に向け、選手だけでなく、審判、役員、関係者と手を取り合い、実りのある大会にした」と2年後を見据えました。



4



2



3



1

Volleyball



7



6



5

1_1つのボールをチーム全員で追う 2_必死のレシーブ 3_地元の一関修紅も善戦 4_優勝した古川学園の高いブロック 5_記録席のスタッフの表情も真剣そのもの 6_スタンドの声援もヒートアップ 7_タイムアウトで気合いを入れる

出場校一覧

北海道 札幌大谷
青森県 五所川原商業
秋田県 聖霊女子短期大学付属
秋田県 県立能代松陽
宮城県 古川学園
宮城県 聖和学園
山形県 米沢中央
茨城県 明秀学園日立



栃木県 宇都宮文星女子
群馬県 高崎健康福祉大学高崎
埼玉県 春日部共栄
千葉県 柏市立柏
東京都 実践学園
新潟県 県立新発田商業
岩手県 盛岡誠桜
岩手県 一関修紅

